



5節 環境づくりにみんなで参加するまち



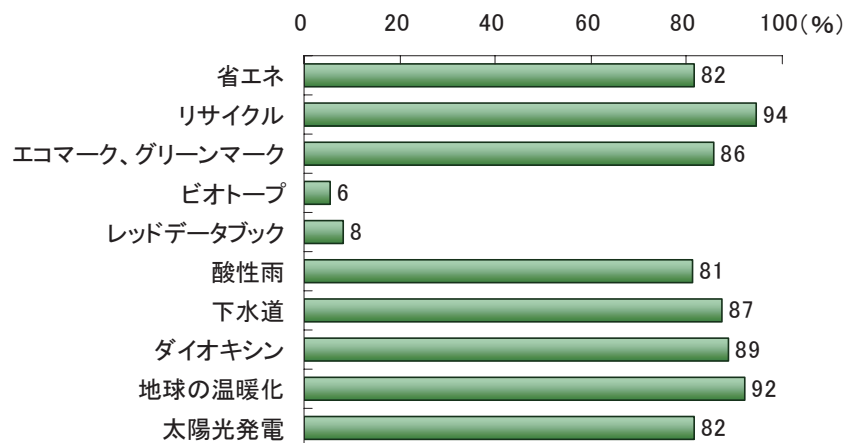
1 環境教育・環境学習をすすめる

(1) 現状と課題

1) 環境に関する用語の認知度

中学生アンケート調査の中で、環境に関する用語について尋ねたところ、「ビオトープ」、「レッドデータブック」といった難解な用語以外は、概ね認知率が80%を超えていたことから、用語に対する認知度は高いことが分かります。

■ 環境に関する言葉の認知度（中学生対象）



2) 豊かな心の育成や社会の変化に対応した教育の推進

「佐伯市長期総合教育計画」の「豊かな心の育成」という項目の中で、児童・生徒の自然とのふれあい、自然体験の不足が課題の1つとして取り上げられています。

今後、心の教育や社会の変化に対応した教育の推進の一貫として、「蒲江町植物図鑑」、「豊かな佐伯城山の自然」等の書籍やガイドブックを活用した環境教育の推進が期待されます。

3) こどもエコクラブ

こどもエコクラブは、将来を担う子ども達が主体的に行う環境学習及び環境保全活動を支援するために、環境省が平成7年度から実施していますが、平成18年度には佐伯市では4クラブが取り組みました。

■ 佐伯市のこどもエコクラブ（平成18年度）

クラブ名	会員数	サポーター数
宇目グリーンクラブ	25	1
佐伯こどもエコクラブ	4	3
上浦放課後児童クラブ	15	5
佐伯児童館エコクラブ	35	3

資料：大分県ホームページ

4) 地産・地消

地産・地消は生産者の顔が見え、安心・安全につながったり、地元の農水産物の消費拡大に貢献するというメリットがあります。

また環境面では、とれたての食材を短距離で運び消費者に提供するため、新鮮な上に輸送にかかるエネルギー消費が少なく、二酸化炭素の排出も少ないため歓迎されています。

こうしたことから、新鮮な地元食材を提供するとともに、地球温暖化防止について考え、食べることを大切にすることを養う点では意義があるものの、現状では、量の確保、価格、地元食材の安全衛生といった問題をかかえています。

■ 地場食材の導入について

1 現状の給食費の範囲内で導入。	72.8%
2 給食費が値上がりしても導入。	17.7%
3 安価な食材であれば地場食材にこだわらない。	6.5%
4 関心がない。	1.6%
5 その他	1.3%

資料：佐伯市長期総合教育計画アンケート調査（平成18年度 佐伯市教育委員会）

(2) 施策の概要**1) 環境情報の収集、整備と活用****① 分かりやすい環境情報の提供**

- 市報やケーブルテレビ等を通じ、環境情報について随時提供していきます。
- 市公式ホームページにおいて、「ごみ」以外に、「地球温暖化」、「光化学スモッグ」、「主要な河川の水質」等、環境に関する情報を提供するページの作成を検討します。

2) 学校における環境教育・環境学習の推進**① 長期総合教育計画に基づく環境教育の推進**

- 佐伯市長期総合教育計画に基づき、体験的な環境教育・環境学習の実践や環境に対する意識の高揚に努めます。

② 施設や環境副読本の活用推進

- 効果的な環境教育を推進するため、「エコセンター番匠」、「クリーンセンター」等の環境関連施設や環境副読本の活用等に努めます。

3) 地域における環境教育・環境学習の推進**① 体験的な環境教育・環境学習の推進**

- 地域における環境教育・環境学習の推進に際しては、市内の各施設等を活用し、河川や地域等のクリーンアップ事業や生き物の観察会、体験的な環境教育・環境学習の推進に努めます。

② 環境教育に協力する市民団体への情報提供、技術支援

- 地域の環境教育・環境学習等に協力する市民団体への情報提供や技術支援に努めます。

4) 地産・地消の推進**① 学校教育における推進**

- 学校においては、総合学習の時間等を活用して、地産・地消の環境面での意義（例：輸送にかかるエネルギー消費、二酸化炭素排出量の削減）について情報提供に努めます。

② 農産物販売所等におけるフードマイレージ*の普及・啓発等

- 地域においては、農産物販売所等において、モデル的にフードマイレージの普及・啓発等に努めます。

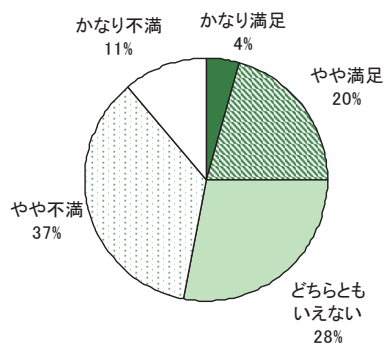
(3) 進捗指標と数値目標



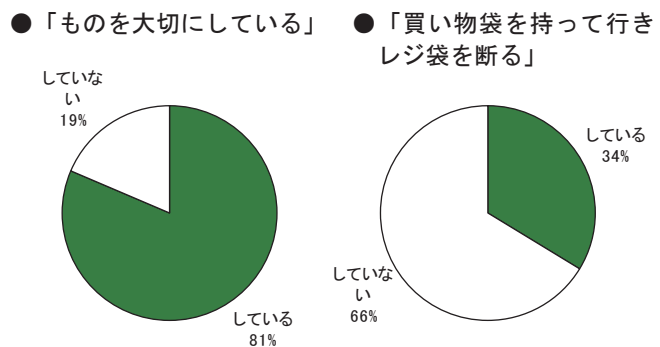
進捗指標	現況値		目標値		備考
		現況年度		目標年度	
こどもエコクラブへの参加数	4クラブ	2006年度	8クラブ以上	2017年度	現況値：大分県HP
「市民の環境に関するモラル」の満足度(評価)	24%	2007年度	50%以上	2017年度	2007年度の市民アンケート調査結果をもとに設定(かなり良い+やや良いの割合)
「ものを大切にしている」の小学生の実施率	81%	2007年度	90%以上	2017年度	2007年度の小学生アンケート調査結果をもとに設定。
「買い物袋を持っていき、レジ袋を断る」の小学生の実施率	34%	2007年度	50%以上	2017年度	2007年度の小学生アンケート調査結果をもとに設定。

参考 (アンケート調査結果より)

■ 「市民の環境に関するモラル」の満足度(評価)



■ 「小学生の環境保全行動」の実施率





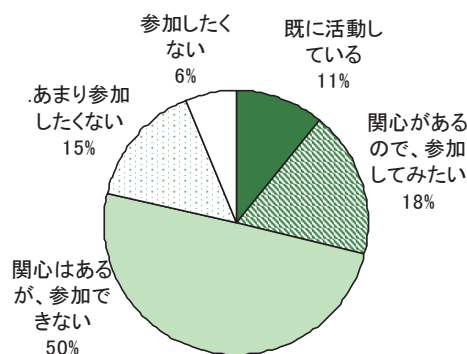
2 みんなで協力して行動する

(1) 現状と課題

1) 環境保全活動への参加状況

市民アンケート調査で、環境保全活動への参加意向について尋ねたところ、「既に活動している」と回答した人は約 11%にとどまっています。一方で、「関心があるので参加してみたい」と回答した人は約 18%、「関心はあるが参加できない」と回答した人は約 50%となっており、このような人が参加しやすい環境づくり等が望まれます。

■ 環境保全活動の参加率（市民アンケート結果より）：再掲



2) 環境市民団体

佐伯市を活動エリアとして環境に関わる活動をしている団体として、以下のような団体等をはじめとした多くの団体が活動しており、今後の佐伯市の環境保全活動を考えるときに重要な役割を担うと考えられます。

■ 佐伯市環境市民団体

団体名	設立年（活動開始時期）
コスモス友の会	
特定非営利法人 さわやか佐伯	平成 12 年
特定非営利法人 Lord. 祝	平成 12 年
野菊の会	平成 7 年
ボランティアグループ さざんかの会	平成 2 年
みずべの会	平成 13 年

資料：おおいたNPOバンクホームページ

また、身近に親しみ馴染んできた環境で環境保全グループによって保全されている空間のうち、合併前の旧 58 市町村からそれぞれ 1 カ所以上「おおいたおすすめ和み空間」として選定しており、佐伯市内では以下のような場所が該当します。

■「おおいたおすすめ和み空間」一覧

地区名	和み空間	環境保全グループ
佐伯	青山河川公園	青山小学校児童会
	「グリーンピア大越」と大越地区の景観	大越区並大越地区棚田を守る協議会
上浦	浅海井海岸（豊後二見ヶ浦）	浅海井地区自治委員会
	暁嵐公園（暁嵐の滝）	
弥生	床木ダム	床木老人クラブなかよしグループ
本匠	ほたるの里	板屋地区ほたる鑑賞会
宇目	蔵小野地区桜並木	蔵小野地区
直川	赤木コスモスロード	赤木むらづくり推進協議会
鶴見	ふれあい休憩所	花づくりボランティア推進協議会
米水津	浦代峠の桜	米水津更正保護女性会
	空の公園	色利浦地区自治会
蒲江	元猿海水浴場	佐伯市蒲江商工会青年部

*環境保全グループによって保全されている空間を「おおいたおすすめ和み空間」として募集し、合併前の旧58市町村からそれぞれ1カ所以上、県内で計87カ所を選定している（平成17年度大分県の事業として実施）。



ほたるの里（本匠地区）



豊後二見ヶ浦（上浦地区）

(2) 施策の概要**1) 環境NPO*、市民団体の育成とネットワーク化****① 人材登録制度の創設**

- 環境NPO、市民団体等との連携及び市の環境に関する人材情報の一元管理を推進するため、環境問題に関する人材の登録制度の創設を検討します。この制度を使って、市民団体の活動に対するアドバイザーとしての派遣や、環境教育の講師として小中学校等に派遣を検討します。

② シンポジウム、イベント等の開催

- 市民、市民団体、行政との連携を強化するため、環境をテーマにしたシンポジウム、講習会、イベント等の開催に努めます。

2) 市民による環境調査、保全行動の促進**① 市全域の自然環境調査の実施：再掲**

- 佐伯市では、詳細な生物の生息・生育情報を調査した統一のデータはなく、特に生物の生息・生育位置を示す地図情報は整備されていないのが現状です。そこで希少な野生動植物の生息・生育地、繁殖地等を把握し、野生動植物の生息・生育環境の保全に資することに加え、市民参加により環境調査を行って協力体制を構築すること等を目的に、市全域の自然環境調査を実施します。
- 市全域の自然環境調査は、地元の学識経験者等の協力を得て実施し、この調査の過程をふまえ、佐伯市の生物の保全策等についての協力体制の構築に努めます。

② 環境資源の保全、管理活動の推進

- 身近に親しみ馴染んできた環境で、各地区の環境保全グループにより保全されてきた空間（おおいたおすすめ和み空間）が、本市にも12カ所あります。今後もこのような場所の保全、活用に努めます。また、これ以外にも、例えば河川や森林の遊歩道の清掃等、市民団体の活動が活発に行われている事業（「弥生の森と清流を守る会」事業等）もあり、支援の充実に努めます。

③ ごみゼロおおいた作戦*の推進

- 県が展開しているごみゼロおおいた作戦について、「ごみゼロ隊」への登録や、「キャンドルナイトキャンペーン」をはじめとした様々なごみゼロおおいたキャンペーンへの市民参加を推進します。

3) 事業者の環境保全行動の促進

① 環境マネジメントシステム*の導入促進

- 佐伯市でのISO14001*の認証取得は9件（2006年5月）、EA21*の認定実績は今のところありません（2007年8月）が、事業者の環境マネジメントシステム*の導入促進及び構築の支援に努めます。

② 地球温暖化対策実行計画の積極的な推進とPR

- 市においては、地球温暖化対策実行計画の積極的な推進に努め、エネルギー使用量の削減等を通じて事業者を経費節減等のメリットについてPRし、地球温暖化対策の積極的な推進に努めます。

③ ごみゼロおおいた作戦*の推進：再掲

- 県が展開しているごみゼロおおいた作戦について、「ごみゼロ隊」への登録や、「キャンドルナイトキャンペーン」をはじめとした様々なごみゼロおおいたキャンペーンへの参加を推進します。

4) コミュニティ政策と地域環境保全対策の一体的推進

① ふれあい機会の充実、人材の育成：再掲

- 佐伯市に存在する多様な環境資源を活用し、自然観察や農林水産業の体験学習等の自然とのふれあいの機会を通じてコミュニティ活動の活発化に努めるとともに、指導的役割を果たす人材の育成に努めます。

② 団体等の活動支援：再掲

- 自然とのふれあい等を通じたコミュニティ活動や体験交流事業の推進に取り組んでいる団体やボランティアの活動を支援します。

③ 地域における環境美化の促進：再掲

- 佐伯市は、海から山に至るまで多様で美しい景観が豊富にあり、これらの景観を保全することが重要です。そこで、コミュニティ活動として定期的な環境美化活動を促進し、美しいまち並みづくりに努めます。（クリーンなまちづくり事業、地球にやさしいまちづくり事業、クリーンアップ作戦、きれいで住みよいまちづくり事業等）

(3) 進捗指標と数値目標



進捗指標	現況値		目標値		備考
		現況年度		目標年度	
環境保全活動の参加率 (再掲)	11%	2007年度	30%以上	2017年度	2007年度の市民アンケート調査結果をもとに設定
ISO14001* 認証事業所数	9件	2006年度	15件以上	2017年度	現況値：(財)日本規格協会HP (2006年9月現在)
EA21* 認定事業所数	0件	2007年度	10件以上	2017年度	現況値：(財)地球環境戦略研究機関 持続性センターHP (2007年8月現在) 普及啓発を推進し、 今後10年で10件以上の 認定を目指す。

参考 (アンケート調査結果より)

■ 環境保全活動の参加率 (再掲)

